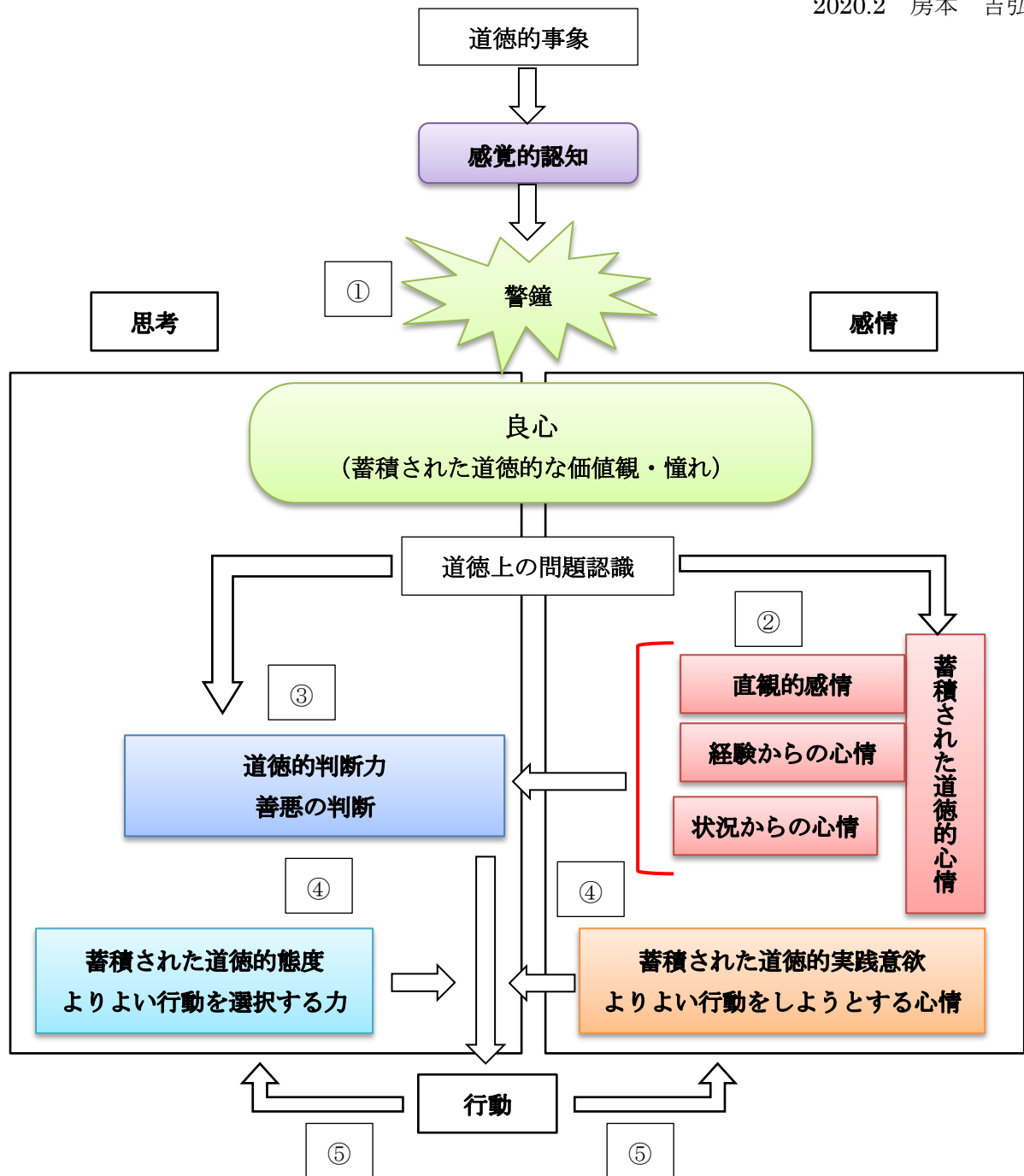




定義

【良心】

これまでに学習したり経験したりした中から蓄積されてきた道徳的な価値観や、学習や経験の中で、よいと思ってきた人物の思いや考え、人との関係性、集団や社会のあり方、命や自然、生き方への憧れなどを基にした判断や態度決定を経験していく中で深められてきた、自己や人間としてのあり方。

【道徳的判断力】

自分（主人公）がおかれている状況、それに対する心情、経験からの心情、良心からの指令や問いかけを総合的に考慮して、善悪や行動の是非等を、理由をつけて道徳的に判断する力。

【道徳的心情】

道徳上の問題を認識した後、これまでの学習や経験から蓄積された心情から沸き起こる時や、移り変わる状況から沸き起こる時などに、善を喜び、悪を憎む気持ち。

【道徳的実践意欲態度】

- ・意欲・・・これまでの学習や経験から蓄積された快（安堵感や達成感等）・不快（後悔や挫折感等）等をもとに、道徳的によりよい行動をしようとする心情。
- ・態度・・・これまでの学習や経験から蓄積された行動様式や、良心からの指令や問いかけに、道徳的によりよい行動を選択する力。

働 き

- ① 道徳的な事象を目や耳で察知すると、良心から何らかの警鐘が鳴らされます。よく「はっとした。」などの感覚的なものになります。ここでは、まだ、善いとか悪いとかは、はっきりとしないものですが、これまでの道徳的な価値観や憧れを基にすると「見過ごしてはいけないぞ。」というための警鐘です。
- ② はっとして、注意を集中すると、道徳上の問題場面だと認識されます。そして、まず、直感的に「いいことだ。」とか「かわいそうだ。」などの感情が浮かびます。また、自分と重ねたり、学習したことを思い出したりした感情がわいてきます。少し周りの状況を見ると、多くの人が見ていたり、誰も気づいていなかったりする状況が分かってきて、それに基づいた感情も出てきます。
- ③ ②のような感情や、良心からの「〇〇すべきだ。」という指令や、「それでよいのか。」という問いかけなどを考慮して、理由をつけた判断を下します。
- ④ 判断に基づいて、状況下から取るべき行動を様々に想起し、また、良心からは、「〇〇すべきだ。」という指令や、「それでよいのか。」という問いかけと合わせて行動を決定します。
一方で、その行動を行う（または、行わない）ための自信や意欲を加えます。この自信や意欲の中には、憧れの人や関係などに近づきたい、真似したいをいう期待感も含まれます。
- ⑤ 表出した行動がもたらす結果は、善い場合は、それぞれの思いや考え方が正しかったということで蓄積され、よくなかった場合は、後悔の念や自責の念、良心の呵責などの感情や、判断規準や行動規範の修正として蓄積されます。また、道徳的事象を見逃さない感覚や、道徳上の問題を認識する見方も高まっていきます。

道徳科の学習は、道徳性を育てることにありますが、このようにみると、それぞれのところをバランスよく育てることの大事さが分かります。教材での学習のねらいをしっかりともちましょう。

また、この働きが、子どもの行動の課題がどこにあるかを見立てる一つの指標になる場合もあります。子どもの道徳性を育てるためにどんどんとやっていきましょう。